

1. 我が国第2位の経済圏で産業等の諸機能の集積
2. 歴史が深く息づき、個性的で多様な地域からなり、外国人観光客が訪れる
3. 医療や脱炭素等、最先端の技術力で我が国を牽引
4. GRPの伸び率が全国平均より低く、関西の相対的地位が低下
5. 東京への人口流出等、ポテンシャルを活かし切れていない京阪神大都市圏
6. 少子高齢化が進展
7. 関西が直面する南海トラフ地震等の自然災害リスクやインフラの老朽化
8. その他、全国統一的な課題

1. 活力ある圏域づくり **【将来像1】**挑戦し、成長する関西

2. 安全・安心な圏域づくり **【将来像3】**災害に屈しない強靱な関西

3. 個性豊かな圏域づくり **【将来像5】**人々を魅了し続ける関西

【将来像2】豊かに誇り高く暮らせる関西

【将来像4】人と自然が共生する持続可能な関西

- 陸海空の総合交通体系の構築により、世界からのゲートウェイとしての機能を強化
- 他圏域との交流・連携を強化し、シームレスな拠点連結型国土を形成

- 圏域内の高規格道路・幹線鉄道・海上輸送等のネットワークの形成や機能を強化
- 地域の活性化や暮らしを支援し「交通空白」を解消するなどの交通体系の構築

- 将来の関西を牽引する産業や魅力ある新たな成長産業の形成を推進
- 万博のレガシーを継承しつつ、地域産業の活性化・稼ぐ力を向上

- 交通ネットワーク・防災・観光などについて他圏域との連携を推進

- 関西の成長・発展を牽引し、快適で暮らしやすい都市機能や環境を再構築
- 官民が連携し、人口減少下でも持続可能なまちづくり・地域づくりを支える環境を整備

- 官民連携及びデジタル技術を活用により、市町村界にとらわれず暮らしに必要なサービスが持続する「地域生活圏」を形成し、どこに住んでも豊かな暮らしを実現

- 災害から人々の生命・財産を守るため、「インフラ、ヒト、モノ、カネ、情報」を強化
- 首都圏などが持つ機能についてバックアップを担う取組を強化

- 再エネの有効活用や、脱炭素の基盤となる新たな産業・技術を強化
- 水素・燃料アンモニア等の供給体制の整備を官民連携により推進

●自然環境の保全・再生推進の取組やグリーンインフラの社会実装による持続可能なまちづくり構築を推進

- 豊富で個性豊かな伝統等の文化資産を保全または創出し、継承
- 大阪・関西万博を契機とし、持続可能な観光、消費額拡大、地方誘客促進を推進



※本資料は、近畿圏広域地方計画協議会や、近畿圏広域地方計画有識者会議における議論等を踏まえ、令和6年12月時点での検討状況を整理したものであり、今後、広域連携プロジェクトに関する記述内容の追記・更新や時点修正など、必要な追加・変更を行うものである。